



尾道の歴史と遺跡シリーズ 8

縄文土器

じょうもんどぎ

まがたま

と
勾玉

をつく
るう



たかおだい こうこふん みつきりょう
高尾第4号古墳 (御調町)

令和3年3月
尾道市教育委員会



おのみち じょうもんじだい 尾道と縄文時代



じょうもんじだい せいかつ 縄文時代の生活

じょうもんじだいは、さむ ひょうがき おお かんたん きこう へんか じだい せいかつ じょうもんじだい
縄文時代は、寒い氷河期が終わり、温暖な気候に変化した時代です。気候が暖かくなると雨
が多くなり、らくようこうようじゆ もり ができました。森には木の実がたくさん実るようになり、それら
を食べるシカやイノシシなどさまざまな動物が増えました。また氷河が溶けて海面が上昇した
ことによりりくち うみ はい こみ、さかな かい と かいめん じょうもんじだい ひとびと じめん
により陸地に海が入り込み、魚や貝が採れるようになりました。縄文時代の人々は地面
に穴を掘って建てた けつあな じゆうきよ す き み どうぶつ にく きょかいりい しょくりょう かり りょう
に穴を掘って建てた 堅穴住居に住み、木の実や動物の肉・魚介類を食料として、狩や漁をし
ながら暮らしていました。食べ終わった貝の貝殻や動物の骨、破損した土器などを捨てた跡
(かいづか) も残されており、当時の生活を けんきゅう じゅうよう じゅうよう
(貝塚) も残されており、当時の生活を 研究する重要なものとなっています。

じょうもんじだい 縄文土器とは？

じょうもんじだい いま まんねんまえ ひとびと はつめい つち
縄文土器は今からおよそ 1 万年前の人々が発明した、土をこ
ねて 形 を作り、 やき かつめい とうき じょうもんじだい
ねて 形 を作り、焼き固めた容器です。土器の発明によって木
の実など食べ物の煮炊きや保存が可能となり、人々の 食生活
はそれまでと比べて おお 大きく変わりました。土器の表面に縄目
の文様が付いていることから、縄文土器と呼ばれ、土器の
なまえ じだい じょうもんじだい よ
名前をとってこの時代を縄文時代と呼んでいます。



おたかいづか しゅうつど じょうもんじだい
大田貝塚にて出土した縄文土器

おのみち じょうもんじだい 尾道と縄文時代

おのみちし しまねけんまつえし むす どうろ かいどう つく とき
尾道市と島根県松江市を結ぶ道路「やまなみ街道」を作った時
に、みつぎちょうおおまち そがわいちごういせき はくつちょうさ おこ
に、御調町大町の曾川1号遺跡の発掘調査が行われました。
じゅうきよあとなど はっけん じょうもんじだい とうき せつき
住居跡等は発見されていませんが、縄文時代の土器や石器が
しゅうつど
出土しています。
た たかすちょうおおたかいづか けんしせき いんのしまおおはまいせき ししせき
その他にも高須町大田貝塚（県史跡）、因島大浜遺跡（市史跡）
でも じょうもんじだい しゅうつど おのみち じょうもんじだい ひとびと く
でも縄文土器が出土しており、尾道にも縄文時代から人々が暮
らしていたことがわかってきました。



おたかいづか たかすちょう
大田貝塚（高須町）

じょうもんどき つく 縄文土器を作ってみよう①

ようい 用意するもの

- 粘土 (土粘土のテラコッタや紙粘土)
- 粘土板 (工作板やカッターマット)
- ヘラ (表面をなめらかにする)
- 文様をつける道具
(タコ糸、竹串、ストローで丸をつけるなど自由に)
- 少量の水 (手の体温で粘土が乾いていきます。ヒビ割れてきたら少し指をぬらして整えよう)



つく 作りかた

1 ねんど 粘土をこねる

手で粘土全体をよくこねます。
しっかりとこねて、粘土をやわらかくしましょう。



2 どき そこ つく 土器の底を作る

1でこねた粘土を◆底の部分用 ($\frac{1}{3}$)
側面用 ($\frac{2}{3}$) に分けます。

7cm 底の部分用の粘土を手のひらでのばして円板状にします。

大きさは直径7cmくらい、厚さは1cmくらいを目安に作ってみよう。

1cm



★土器の大きさは底の大きさで決まります。
底を小さくする = 小さい土器
底を大きくする = 大きい土器になります。
最初は小さめの土器の方が作りやすいので、
←の目安の大きさがオススメです。

じょうもんどき つく 縄文土器を作ってみよう②

3 ねんど つく 粘土ひもを作る

2で側面用に分けた粘土で、ひものような細長い形ほそながのものをいくつか作ります。

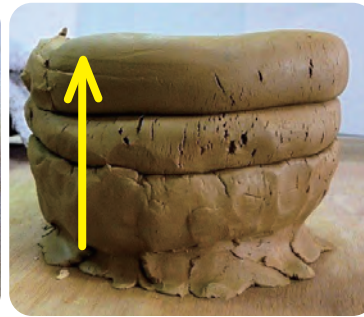
細ほそすぎたり、太ふとすぎたりしないように同じ太さおなふとのものにしていきましょう。



4 ねんど つく 粘土ひもを積みあげる

粘土ひもを2でつくった円板えんばんのふちそに沿ってグルッと囲むようにくっつけます。

指ゆびで底部分そこぶぶんとひも部分ひぶんが一体化いったいかするようになじませます。粘土ひもの輪ねんどをドンドン積みあげて高くたかしていきましょう。重ねたひも同士かさねたひもどうしのつなぎ目つなぎめがなくななるように、形かたちを整ととのえていきます。



5 とき くち つく 土器の口を作る

口の部分は壊れやすいので、少し厚めにしましょう。

★土器の厚みが薄くなったところは残った粘土で補強していきましょう。



じょうもんどき つく 縄文土器を作ってみよう③

6 ぜんたい ととの 全体を整える

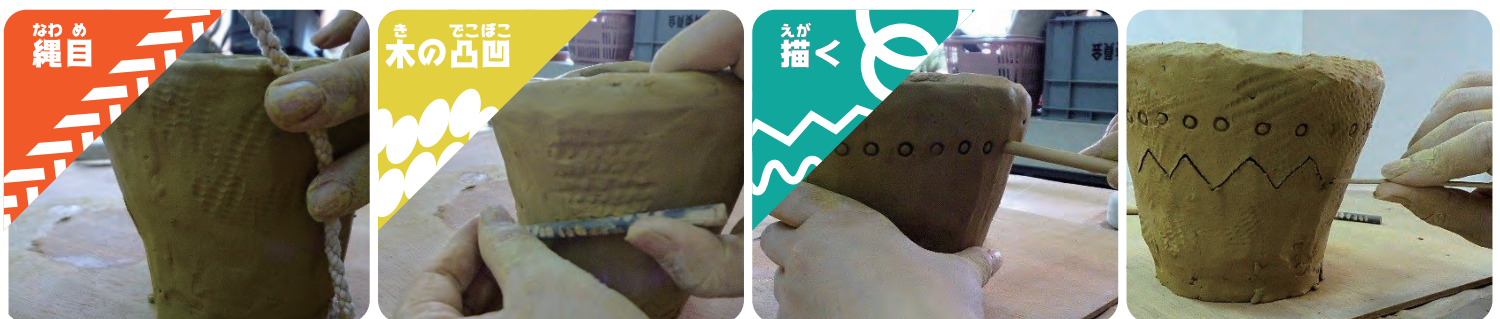
どき でこぼこ
土器の凸凹したところをなめらかにしていきます。
どき うちがわ わす ま わ う
土器の内側も忘れずに、すき間やひび割れを埋めていきましょう。



★ねんど かわ いて、ひび わ 割れてきたら、ゆび すこ みず をつけて しゅうふく していきましょう。

7 もんよう 文様をつける

なわ き ぼう など、じゆう もんよう
縄や木の棒など、自由に文様をつけていきましょう。た を押し付ける ときに、どきぜんたい
がくずれないように ちゅうい 注意しましょう。あま ねんど と て かざり をつけても◎



8 かんせい 完成！！

ひかげ お
日陰に置いて、ゆっくり2～3週間ほど
かわ
乾かします。

ちゅうい
！注意！
みず い
水を入れると、もと ねんど のようにやわらかくなります。
えきたい い
液体は入れないようにしてください。





まがたま こふんじだい 勾玉と古墳時代

まがたま 勾玉とは？

まがたま 勾玉とは、^{じょうもんじだい}縄文時代から^{こふんじだい}古墳時代にかけて使われていた^{どうか}道具です。^{にほんぜんこく}日本全国の^{いせき}遺跡から^{はっくつ}発掘されており、^{おのみち}尾道でも^{こふんじだい}古墳時代の^{いせき}遺跡である^{たまひめづかこふん}玉比売塚古墳（^{おのみちにししんじちやう}尾道市西藤町）などから^{しゅつど}出土しています。多くは^{おお}翡翠や^{ひすい}水晶などの^{すいしやう}石で作られています。他にも^{ほか}土製や^{つちせい}ガラス製の^{せい}ものも^み見つかっています。形状は^{けいじやう}アルファベットの^{かたち}Cの^ま形に^{まる}曲がり、^{ふん}丸く^{あな}ふくらんだ^あ部分に^{あな}穴が開いています。この^{あな}穴に^{ひも}紐を通して、^{とほ}首飾りにして^{くひかさ}いたのでは^{かんが}ないかと^{まがたま}考えられています。勾玉が^{なぜ}何故このような^{かたち}形なのかについては^{さまざま}様々な^{いけん}意見があり、“^{あか}赤ちゃんがお母さんのお腹の中^{なか}にいる^{すがた}姿を^も模した”“^{つき}月の形^{かたち}を^{まね}真似した^{もの}もの”など^い言われています。また、^{まがたま}勾玉は^{たいせつ}大切な^{ぎしき}儀式やお祭りなどにも^{つか}使われていた、と^{まがたま}されていますが、^{くわ}詳しいことは^わまだ^{まがたま}まだ^{なまえ}分かって^{ゆらい}いません。「^{まがたま}勾玉」という^{なまえ}名前の^{ゆらい}由来についても、“^ま曲がった^{かたち}形の^{たま}玉（^{うつく}美しい^{いし}石）だから「^{まがたま}まがたま」というのが^{ゆりよく}有力な^{せつ}説です。



しまねけん どうとこいせき しゅつど まがたま
島根県堂床遺跡から出土した勾玉
しまねけんきやういっくいんかいしやう
(島根県教育委員会所蔵)

こふんじだい 古墳時代のはじまり

まがたま しゅつど 勾玉の^ふ出土が^{やよいじだい}増える^た弥生時代は、^{たが}田んぼを^{いなさく}耕して^{はじ}稲作を^{しだい}始めた^{じょうもんじだい}時代です。^{じょうもんじだい}縄文時代では^{しよくりやう}食糧を^{さが}探しながら^{いどう}移動して^{せいかつ}生活をして^{いなさく}いました。稲作を^{はじ}始めて^{しよくりやう}食糧が^{あんてい}安定して^て手に入る^{はい}ようになると、^{ひとびと}人々は^{ていじゆう}定住する^{ていじゆう}ようになり^{ひとびと}ました。定住する^{あつ}人々が^{あつ}集まり「ムラ」となり、^{やがて}やがて「クニ」が^{しはい}できました。「クニ」を^{ひと}支配する^な人が^{おお}亡くなると、^{おお}大きな^{はか}お墓（^{こふん}古墳）が^{つく}造られる^{しだい}ようになります。その^{しだい}時代を^{こふんじだい}古墳時代と^い言います。古墳には、^ぶ武器や^{かちゆう}甲冑・^{はにわ}埴輪・^{かがみ}鏡・^{まがたま}勾玉など、^{まいそう}埋葬された^{けんい}人の^{しやうちやう}権威を^{しやうちやう}象徴する^{よう}ような^{こうか}豪華な^{しなじな}品々が^{ひつき}棺と^{とも}共に^{おさ}納め^れられました。



たかおだい こうこふん みつぎらやう
高尾第4号古墳 (御調町)

まがたま つく 勾玉を作ってみよう①

ようい 用意するもの

〇ろう石（蝟石）

〇紙ヤスリ2種類＝粗め #60番（ザラザラ）

細かめ #240番（仕上げ用）

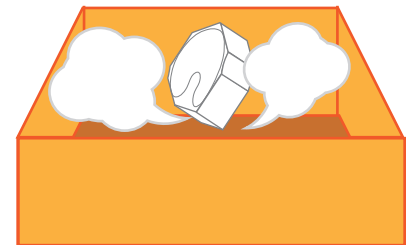
〇黒マジック（下書き用）

〇小型ノコギリ（大まかに切る時に使う）

〇広い作業スペース、または 空の箱

（※ろう石を削ると、大量のけずり粉が出ます。周りが汚れないように、段ボールなどの箱や新聞紙を敷いて、作業していきましょう。）

紙ヤスリの種類を示す番号です。
表面の粒子の粗さが違います。

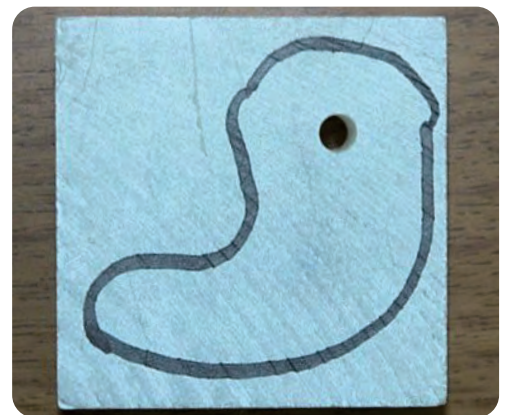


つく 作りかた

1

まがたま かたち 勾玉の形をかく

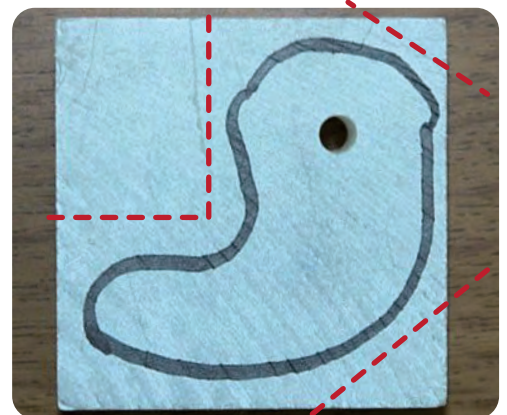
ろう石に黒マジックで、形をかきます。
紙やすりで削るとドンドン小さくなっていくので、
石いっぱい大きくかくのがオススメです。



2

よぶん 余分なところをカットする

小型ノコギリなどで、大まかにカットをすると
作りやすくなります。
※ケガをしないように注意しましょう！



まがたま つく 勾玉を作ってみよう②

3

あらかず 粗削りをする

あらめ かみ
粗目の紙ヤスリ（#60）を使います。
かど
角がなくなるように、ぜんたいてき りったいてき けず全体的・立体的に削って
いきましょう。

たいりょう しろ けず こな で らく つくえ
※大量の白い削り粉が出ます。服や机など
まわ よこ周りが汚れないようにしましょう。



4

こま め かみ ととの 細かい目の紙ヤスリで整える

かたち ととの
形が整ってきたら、こまかい め かみ細かい目の紙ヤスリ
（#240）に持ちかえます。

こな おお粉が多くなったら、みず水につけて落としましょう。

3と**4**をくり返して、かんせい完成です。



5

かんせい 完成！！

ひもをとお通して、オリジナルのくひかさ首飾りにしたり、
マジックペンでカラフルないろづ色付けをしてみよう！



地域の特徴ある埋蔵文化財活用事業

尾道の歴史と遺跡シリーズ 8

「縄文土器と勾玉を作ろう」

令和3年3月

尾道市企画財政部文化振興課

